

ダイワコーポレーション
 (本社・東京、曾根和光社長)の川崎第2営業所に勤務する柏熊結姫さん。普段は入庫した輸入貨物の商品管理を担当するなど、現場業務を円滑に進める上でなくてはならない重要な戦力の一人となっている。

明るい社風が
 就職の決め手

実は柏熊さんは武術太極拳の指定強化選手。子ども頃から競技に打ち込み、これまで全日本武術太極拳選手権大会で優勝するなど、輝かしい実績を残してきた。日本代表選手として国際大会でも活躍し、仕事

ダイワコーポレーション

柏熊 結姫さん(24)



「仲が良く風通しの良い職場が自慢」と柏熊さん

と競技を両立する日々を送る。

柏熊さんがダイワコーポレーションと出会ったのは4年ほど前。体育会系学生就職活動を支援する「フリースタートプランニング」の紹介がきっかけだった。だが当初就職先に考えていたのは、スポーツ、食品など別

の業種。大手宅配会社の名前を知っていても「就職活動を始めた頃、物流にはほとんど興味なかった」と振り返る。

「そんな柏熊さんの心をダイワコーポレーションの『明るい社風』が引きつけた。将来の選択肢が複数ある中で迷わず入社を決めた。

大変重要な戦力(曾根社長)となっていた。とはいえ、入社後は慣れないことが多く、苦勞する場面も。柏熊さんが勤める現場では、ダイワコーポレーションの社員と派遣社員が協力して業務をこなす。

もあった。それでも「仕事と競技を両立できること」がモチベーションにつながった。競技活動を全面支援するため、会社も定時で仕事を終えられるよう調整。毎日練習できる環境を整えてい

員から認められるまでに成長。同社が武術太極拳の大会で使用する用具の物流業務を受託した際、相手先の営業窓口との橋渡し役も果たした。

仕事と競技の二刀流

た。就職説明会で行われた社員座談会は終始明るい雰囲気進んだ。面接も決まったことを聞くのではなく、これまでの経験を重視し、柏熊さんのことを知るうとする姿勢がうれしかった。

職場だ。現在は輸入コンテナをデバンニングした後、原料貨物が正確に入庫されているかを確認する検品を担当。1日当たり40トン、テナ1本分の商品を扱い、現場で「なくてはならない

当然さまざまな性格の人がいる。入社1年目当時は、ベテラン従業員とのコミュニケーションがうまくいかず、作業の指示を出してもなかなか思い通りに進まず、つらい思いをすることが

「武術太極拳を続けながら仕事をすることを応援してくれる会社には感謝しかない。分からないことは先輩社員に率先して聞き、多くを学んだことで、同僚全

た。いまは「現場で働くことが好き。物流を実感できる」と笑顔で話す。「これからいろいろな営業所で業務を担い、多くの顧客のお手伝いがしたい」

(小林 孝博)